

赤十字 NEWS

<http://www.jrc.or.jp>

ボランティアの
ノウハウを
被災地で
役立ててる



被災地に集まる大勢のボランティアを支えるため、共に活動する社会福祉協議会スタッフと赤十字防災ボランティア
(岡山市東区ボランティアセンター)

西日本各地に甚大な被害をもたらした記録的な大雨。

被災地の一つ岡山県では、各市町の社会福祉協議会のボランティアセンターの運営に赤十字防災ボランティアが積極的に参画しています。

受け付けから活動場所までの送り出し、熱中症予防の呼びかけ、応急手当やニーズのマッチングなど、ボランティア活動のコーディネートを一手に引き受けるセンターで、赤十字防災ボランティアのノウハウや経験が即戦力となっています。

CONTENTS

FEATURE__2・3

地域に根差す 防災活動

荒川区立南千住第二中学校
レスキュー部の取り組み

TOPICS__4・5

「西日本豪雨災害」に
駆け付けて
「平成30年7月豪雨災害」
義援金、受け付け中

ドキドキ体験！
みんなのボランティア
「地域のボランティア活動」(青森県)

AREA NEWS__6・7

滋賀/熊本/大阪/神奈川/宮城/
長野/広島/石川/兵庫/群馬

健康豆知識

WORLD NEWS__8

核兵器廃絶と赤十字
1枚の写真から



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室
〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
TEL: 03-3438-1311
一部 20円
赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

 **日本赤十字社**
Japanese Red Cross Society



地域に根差す防災活動

JRC加盟校

荒川区立南千住第二中学校レスキュー部の取り組み



地震や豪雨など立て続けに起きている災害によって、私たちが生活している身近な場所にも、たくさんの危険が潜んでいることが改めて浮き彫りになっています。被害を最小限にするために知っておくべきことは？ JRC(青少年赤十字)加盟校である区立中学校で、地域の防災を担う部活動・レスキュー部の活躍をレポートします。

園児と手をつないだレスキュー部員に、お散歩中の高齢者から「ご苦労さん」と声が掛かりました。この日は荒川区立南千住第二中学校レスキュー部の主な活動の一つである、「保育園との合同避難訓練」。共働きの多いこの地域では、災害発生時に不在の親に代わり、保育園から避難所となる中学校までの道のりを、部員たちが園児の手を引いて誘導します。まさ

に地域に根差した防災訓練の様子を、大人たちが頼もしい様子に見つめます。

「防災意識の向上」と「地域貢献」を目的に、レスキュー部が設立されたのは東日本震災の翌年、2012年のこと。齊藤進校長の「防災意識を持った生徒が大人になり、次の世代に防災の大切さを継承していくことが、地域の減災につながる」という信念のもと、地域と密着した活発な活動を展開し、ピブス(ユニホーム)を着た部員たちの姿は今やすっかり街に溶け込んでいます。

レスキュー部の活動はほかにも、消防団や町会が主催する防災訓練への参加から、地域行事のボランティアまでと多忙です。それでも3年間を通して退部する部員がほとんどいないのは、「地域の方から感謝されることで、自分は地域社会の役に立つ人間であると実感できる。つまり自己肯定感と自信が育まれるからではないでしょうか」と齊藤校長は推測します。現在の部員の中には、小学生の頃にレスキュー部員と触れ合ったことをきっかけに入学した生徒も。地域の次世代を担う子どもたちにポジティブな連鎖をつなげているレスキュー部、この日参加した園児の中にも未来の部員がいるはず。



写真:毎日新聞社/アフロ

災害発生時「危険になる場所」はどこ？ 日頃の注意喚起が地域の防災には大切！

写真右：東日本大震災で倒壊した民家の塀。幅約2.5メートル、高さ約1.6メートルの石塀が歩道をふさぎました
写真左：6月の大阪府北部地震では小学校のプール沿いのブロック塀が倒れ、9歳の女子児童が下敷きとなり、尊い命が犠牲になりました



写真:読売新聞/アフロ

全国が注目！ 部員数245人の「レスキュー部」



地域の防災は私たちレスキュー部員に任せてください！

現在の部員数は245人と、全校生徒の実に70%。ほかの部活動との兼部も可能です。またレスキュー部だけに専念する部員は、「スーパーレスキュー部」としてジュニア防災検定の取得などにも挑戦しています。

部長になってから、JRCの態度目標である「気づき、考え、実行する」をより意識し、部員にも伝えるように努めています。

災害のニュースを見るのはつらいです。だけど、いざというときの知識にもなると考え、目を背けずに注目するようになりました。

地域の大人の方からいろんなお話が聞けるのも楽しいです。レスキュー部の活動を通して、この町がもっと大切にくなりました。



レスキュー部部長 小林正英さん(3年生)



スーパーレスキュー部部長 横田京さん(3年生)



レスキュー部副部長 都秋梅未さん(3年生)

地元保育園との合同避難訓練



ここは落下物が心配！ 園児は道路側へ

園児1人に対して1～2人の部員が誘導。交通量の多い道では建物側を、建物の倒壊や落下物の危険がある場所では道路側を園児に歩かせるなど、場所に応じて行動を考えることが大切です。



避難所生活を少しでも楽しくするための工夫

避難所で園児たちが退屈してしまわないよう、マット運動やお絵描きなどを用意しました。暑い日にはこまめな水分補給をするなど、遊びを通して園児たちの体調チェックもします。



優しくて頼もしい部員は園児たちのヒーロー！

保育園を出発するときには人見知りしていた園児も、部員との楽しい触れ合いですっかり仲良しに。最後に保育園に送り届けたときには、元気にハイタッチをして別れを惜しみませんでした。

レスキュー部 3つの取り組み

#1 月1回、地域の高齢者宅を訪問し、交流する**絆ネットワーク活動**。災害時に高齢者をはじめとする「災害要支援者」を避難所となる中学校まで誘導し、生活をサポートするのもレスキュー部の役割ですが、日頃から顔見知りになっておくことは円滑な支援につながります。

#2 8月恒例の**レスキュー部防災訓練**。段ボールを使った避難所の設営や投光器の組み立て、AEDの操作など、災害時さながらのシミュレーションを中学校全域で行います。校庭では避難誘導訓練に参加していただいた高齢者の皆さんに、炊き出しを振る舞うなどの交流も行います。

#3 9月から翌年の3月にかけては、地域行事がめじろ押し。①地域の防災訓練への参加②小学校の地域学習にガイド役として協力③障害者の運動会での運営サポート④地元のお祭りやパレードで、レスキュー部を挙げてのお手伝い、などなど、**地域貢献**を積極的に行っています。

「西日本豪雨災害」に駆け付けて

義援金名「平成30年7月豪雨災害義援金」

6月28日から7月9日にかけての豪雨により、西日本を中心に死者219人、行方不明者10人、全壊・半壊家屋4949棟*の甚大な被害が発生しました。日本赤十字社は7月6日に8府県に大雨特別警報が発令されたことに伴い救護体制を敷設。各地の被災状況を確認すると直ちに災害対策本部などを設置し、本社および24の都府県支部で救護活動を実施しました。 *消防庁発表(7月23日現在)



1 7月7日早朝6時：広島県坂町、下敷きになった住人を救護するため、倒壊家屋からの救出を待つ広島赤十字・原爆病院 DMAT 2 7月7日未明：次々と救援要請が寄せられ、広島赤十字・原爆病院 DMAT が出動 3 7月8日：被災地までの陸路が開ざれているため、地元漁協の協力で、船での“上陸作戦”に臨む広島県支部救護班 4 7月8日：広島県坂町小屋浦小学校にて救護所を開設した広島県支部救護班。避難された方からは「日赤が来てくれたから心強い。ホッとした」との声 5 避難所となった岡山県倉敷市岡田小学校にてニーズ調査と巡回診療を行う岡山県支部救護班

被災地に笑顔を取り戻すために

酷暑の中、まだまだ厳しい生活を強いられる被災地の皆さんへ、継続して支援をお届けします。



避難所で懸念されるエコノミークラス症候群予防のため、足の血流を促進し、血栓ができにくくなる弾性ストッキングを配布(岡山県)



「手伝えることがあれば」と駆け付けた防災ボランティアと共に、救援物資の搬送準備を行う広島県支部職員



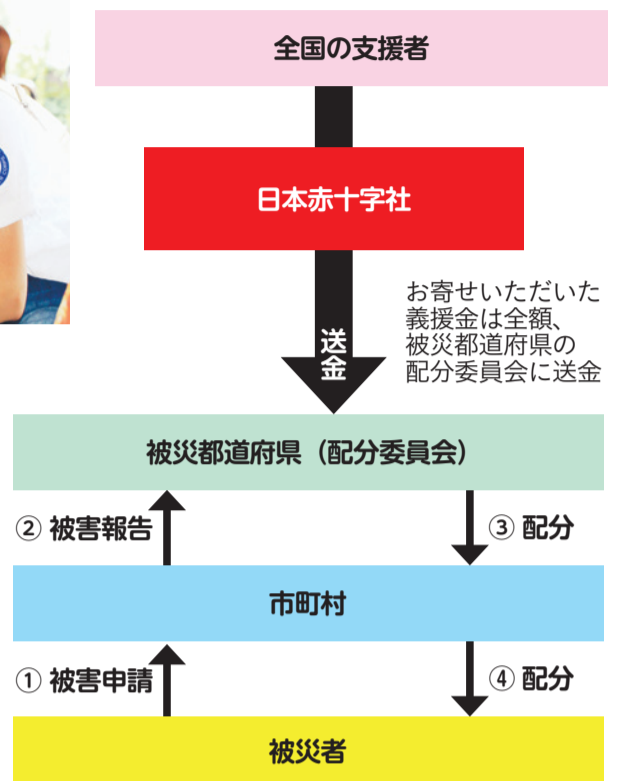
避難所に無事にたどり着けたものの、常備薬を持ち出せず不安を抱えていた親子。思いを語るうちに笑顔が戻り、看護師も安心(広島県)

「平成30年7月豪雨災害」義援金、受け付け中

平成30年台風第7号および前線等に伴う大雨災害により西日本を中心に甚大な被害が出ました。この災害で被災された方々を支援するため、下記のとおり義援金を受け付けております。お寄せいただいた義援金は、全額を被災者にお届けいたします。皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。



《義援金が届くまでの流れ》



- ①被災者は市町村に被害申請
 - ②自治体および配分委員会は、被害状況を把握
 - ③配分委員会は、被害状況に基づき市町村に配分
 - ④市町村の基準で、被災者に配分
- ※金額やタイミングは自治体によって異なります

- 義援金名称：平成30年7月豪雨災害義援金
- 受付期間：平成30年12月31日(月)まで
- 協力方法：

【1】郵便振替によるご協力(ゆうちょ銀行・郵便局)

口座記号番号 00130-8-635289
口座加入者名 日赤平成30年7月豪雨災害義援金

※ゆうちょ銀行の振込用紙の半券を受領証の代わりとして、寄附金控除の申請にお使いいただけます。
※窓口でのお振り込みの場合は、振込手数料が免除されます(ATMによる通常振り込みおよびゆうちょダイレクトをご利用の場合は、所定の手数料がかかります)

【2】銀行振り込みによるご協力

- ①三井住友銀行 すずらん支店 普通 2787545
- ②三菱UFJ銀行 やまびこ支店 普通 2105538
- ③みずほ銀行 クマギ支店 普通 0620405

※口座名義はすべて「日本赤十字社(ニホンセキジュウジヤ)」
※銀行振込の際の利用明細票を受領証の代わりとして、寄附金控除の申請にお使いいただけます。
※ご利用の金融機関によっては、振込手数料が別途かかる場合があります

【3】岡山・岐阜・京都・愛媛・広島・高知・福岡・鳥根・山口・兵庫の各県支部でも受け付けています。(7月26日現在)
詳細は日赤のサイトをご覧ください。

日本赤十字社 平成30年7月豪雨災害義援金 検索

<http://www.jrc.or.jp/contribute/help/307/>



ドキドキ体験! みんなのボランティア vol.3

※土曜日のボランティア活動力※ 海岸清掃 at 竜飛崎の海岸(青森県)



ごみは生活ごみを中心に、ペットボトルやキャップ、小枝などさまざま。石をひっくり返して丁寧に拾います。

わっ!!石の下からこんなに長いロープ!!



海上自衛隊有志の方々、青少年赤十字の小中学生たちと、声を掛け合って、ごみを拾って運びます。

雨がやむのを待って、わずか1時間半の活動。それでも総量約280kg、20Lの袋で約150個ものごみが集まりました。

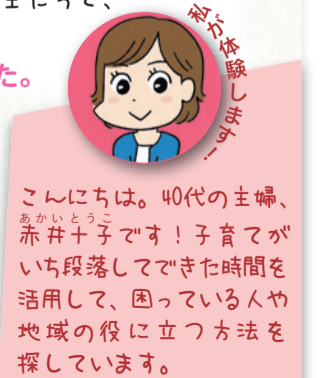
地域の皆さんに、夏の楽しい思い出を作っていただくために

7月上旬、青森県の地域赤十字奉仕団、三厩分団の海岸清掃に参加しました。地域赤十字奉仕団とは、「地域社会に貢献したい」人びとによって市区町村ごとに組織された赤十字のボランティアグループのこと。今回は、浜辺のごみを拾って、本来の美しい海岸に戻し、安全に海水浴シーズンを過ごしてもらうための清掃活動でした。きれいな海から、多くの生活ごみが打ち寄せられていることに驚きましたが、87人の皆さんと声を掛け合い、和気あいあいとした雰囲気の中、とんとんごみを集めていきました。最後に、ごみがなくなった美しい海岸を眺め、心までスッキリする体験でした。

お住まいの地域の窓口はウェブサイトでもご案内

jrc.or.jp/volunteer/search/

※ボランティアの活動内容や受け入れ状況は地域によって異なります。詳細は日赤支部にお問い合わせください。



こんにちは。40代の主婦、赤井千子です!子育てが一段落してできた時間を活用して、困っている人や地域の役に立つ方法を探しています。

AREA NEWS

全国各地、あなたの生活のすぐそばで、日本赤十字社の活動は行われています。

滋賀県

想像を超えるほどの竜巻の猛威 医療チームが被災地で巡回訪問

6月29日に米原市を竜巻とみられる突風が襲いました。140棟もの建物に被害が出ています。滋賀県支部では地元行政の災害対策本部と連携し、医師・看護師らで構成された救護班を現地に派遣。民家や事務所の屋根が飛ばされたり、窓ガラスや瓦の破片が屋内外に散乱するなど、竜巻の猛威が傷跡を残す被災地で巡回訪問し、被災者の医療救護に当たりました。



1軒ずつ巡回訪問し、けががないかなど様子を伺った

熊本県

革新的！電源要らずのバイオトイレ 熊本赤十字病院が厚生労働大臣賞を受賞

熊本赤十字病院が「第20回日本水大賞 厚生労働大臣賞」を受賞しました。同院による「水防災」に関する研究開発が被災者などを支援する取り組みとして評価されたものです。3月号でも紹介した、下水道や電源設備が不要という革新的なバイオトイレ「完全自己処理型水洗トイレ」もその取り組みの一環。6月26日に秋篠宮ご夫妻もご臨席のもと、東京都内で表彰を受けました。



太陽光発電で臭いもない。内装は男女それぞれ安らげるデザインに

宮城県

「看護学生としてできることを」 救護活動でJRから感謝状

石巻赤十字看護専門学校生2人が電車内で救護活動を行い、JR東日本仙台地区駅長から感謝状が贈られました。男性が急にうずくまり吐き気を催し意識を失いかけていることに気がつき、声掛けと脈拍や意識を確認。2人は「看護学生としてできる限りのことをしよう」と思いました。周りの協力もあり心強かったです」と緊迫した当時の状況を振り返りました。



感謝状を手に笑顔の石川菜奈恵さん(左)と岩瀬あさひさん(右)

長野県

独自に開発した医療補助器具で 2年連続グランプリを獲得！

諏訪赤十字病院が「現場のひらめきをカタチに！第11回みんなのアイデアde賞」で最高賞のグランプリを受賞。日本病院会などが主催するこの賞は、医療、介護、福祉の工夫やアイデアを現場から募集するもので、同院が独自に開発した医療補助器具「カテーテル受け台」が高い評価を獲得しました。同院の最高賞受賞は昨年の「点滴クリップ」に続く2年連続となります。



着脱時に清潔さを保ち、スタッフが手で押さえ続けなくていい

広島県

原爆投下直後の貴重な資料でよみがえる 赤十字病院の救護活動の記録

原爆投下直後の広島赤十字病院(現広島赤十字・原爆病院)の救護活動をテーマにした特別展が、広島平和記念資料館で開催中。設備が破壊され治療材料も底をつく状況で、生き残った医師たちは昼夜を分かたず救護にあたりました。同展では、負傷した人々を治療する様子など、当時撮影された貴重な写真が多数展示されています。入場無料、来年3月末まで(予定)。



やけどの手当てを受ける少年(宮式雨撮影/朝日新聞社提供)

大阪府

大阪府北部で初めての震度6弱を観測 ニーズへの迅速な対応で被災者の支えに

6月18日に発生した大阪府北部地震。大阪府支部では地震発生後直ちに支部災害対策本部を設置し、災害対応にあたりました。

日赤災害医療コーディネーターと支部職員を大阪府保健医療調整本部に派遣し、他機関と連携しながら、府内のニーズを調査。被害の大きい茨木市からの要請により、18日～22日に4ブロック各支部(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・

和歌山)の救護班と協働で医療ニーズ等の調査のため、避難所アセスメントを実施するとともに、保健師支援や避難所支援を行い、地域の保健医療を支えました。

また、高槻市内の避難所等に避難されている方々に対して、緊急セットや安眠セットなどの救援物資を配布しました。



救護班が被災された方一人ひとりに声をかけ体調を伺った



保健師と連携を図って巡回診療する救護班

神奈川県

水難事故から命を救う70年の歴史 江の島で水上安全法講習を開催

神奈川県支部では、6月6日～8日にかけて「水上安全法救助員II養成講習」を藤沢市片瀬江の島の海岸で開催しました。水と親しみ、水の事故から命を守るために毎年行われているもので、受講者はレスキューボードでの救助などを実践。開催地の藤沢市は、70年前に国内で初めて「溺者救助法講習会」が開かれた場所で、水上安全法講習「発祥の地」です。



「水の事故から命を守るために講習を普及していきたい」と指導員

石川県

ユースボランティアが作成した AEDマップで設置場所を素早くチェック

6月2日に開催された「第67回金沢百万石まつり」で「百万石まつりAEDマップ」が初導入されました。このAEDマップは石川県支部のユースボランティア(青年奉仕団、金沢星稜大学・北陸大学などの学生奉仕団)が作成。まつりコース沿道のAED設置場所をスマートフォンで確認できる優れたものです。現在、一般向けのマップとして開発が続けられています。



当日は巡回する救護スタッフ総勢122人がAED設置場所をスマホで確認

兵庫県

2200を超える応募の中から3人入賞！ 作文コンクールで看護学生が大健闘

姫路赤十字看護専門学校が「第9回 全国看護学生作文コンクール」において最優秀団体賞を受賞しました。同校では5年前の第4回以降、3年生全員が卒業前に応募し、昨年までに8人が佳作入賞した実績があります。今回のコンクールでは、読売新聞社賞、さむ研究所賞、佳作にそれぞれ入賞。1次審査通過作品が最多の団体として、同校が最優秀団体賞の栄誉に輝きました。



6月9日、東京で行われた表彰式でトロフィーと表彰状が贈呈された

常任理事会開催報告

平成30年7月27日、本社において平成30年度第4回の常任理事会が開催されました。

- 1 資金の借入について (長浜赤十字病院の電子カルテシステム等の更新にかかる資金の借入) 審議の結果、資金の借入については原案のとおり議決されました。また、平成30年7月豪雨災害にかかる日本赤十字社の対応、外部監査の導入および予算の補正にかかる6月分の社長専断事項等について、それぞれ報告しました。

present プレゼント

被災地での「こころのケア」を支援*する ネスレ日本(株)より

ネスカフェ ゴールドブレンド コク深め ボトルコーヒー

(無糖・900ml / 1本)

5名さま

*西日本豪雨災害被災地での「こころのケア」活動に、ネスレ日本のコーヒーやお菓子が発立されています

「こころのケア」:災害などにより精神的ダメージを受けた人に対するケア活動

上記「ボトルコーヒー(1本)」を5名さまにプレゼントします。以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。

- ①お名前 (匿名をご希望の方は、その旨をご記入ください)
- ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
- ⑤赤十字NEWS 8月号にされた場所(例/献血ルーム)
- ⑥8月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか? (いくつでも)

A. 表紙 B. 地域に根差す防災活動
C. 「西日本豪雨災害」に駆け付けて
D. ドキドキ体験! みんなのボランティア
E. エリアニュース
F. 健康豆知識 G. プレゼント
H. ワールドニュース 1. 1枚の写真から

⑦赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他 Voice (読者の声) への投稿もお待ちしております。

郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3 日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS 8月号プレゼント係
FAX / 03-6679-0785 メール / koho@jrc.or.jp (件名「赤十字NEWS 8月号プレゼント係」)
8月31日(金)必着
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

群馬県

～災害医療の原点～ 日赤職員2500人が携わった御栗鷹山の悲劇

1985年8月12日発生、520人が犠牲となった「日航機墜落事故」。事故の翌朝から現地対策本部に入り、救出に当たった元前橋赤十字病院副院長・齋場庄一さんが、5月25日、群馬県赤十字有功会の総会で講演を行いました。

「山中で、奇跡的に生存された4人の応急処置を行ったが4人も重体。残骸が散乱する山を駆け上がり、山頂で手旗信号をしている自衛隊員にヘリコプターを呼んでほしいと頼みました。最初、現場には貨物用ヘリしかないとちゅうちよされましたが、あきらめずに懇願し、ようやく応じてもらって、4人を無事救出することができました」

「事故当時は、DNA鑑定が普及する前。顔を見て個人識別ができたのは全体の1割程度。ジャンボ機の激突の激しさを感じられました。損壊の激しい多数のご遺体を、引き渡されるご家族の苦しみを考えて、「修復」に努めた日赤の看護師の活動は賞賛されました」

自身で撮影した写真などを用いて、当時の救護活動の詳細を語られました。

この事故により災害時の救急対策が検討され、現在の日赤の救護体制に生かされています。



未曾有の航空機事故の救護は多くの地元ボランティアにも支えられた



講演を主催した県有功会の金澤壽夫会長は「語り継いでいくことの大切さを改めて感じた」と述べた

「知って良かった!健康豆知識」は切り取って保存していただけます

日赤のドクター&ナースが教える 知って良かった! 健康豆知識



夏バテとは違う!? 「クーラー病(冷房病)」の対処法

小野田赤十字病院 副院長 佐藤 智充 (さとうともみつ) 山口県山陽小野田市大字小野田 3700 番地 TEL 0836-88-0021

体がだるい、食欲がない、下痢が続く、眠れない、頭痛や腹痛が治らない。夏にこんな症状が続いていたら、「クーラー病」かもしれません。クーラー病は冷房で体が冷えずに発症すると思われがちですが、実は、その原因は「自律神経の乱れ」。冷房の効いた部屋で長時間過ごしたり、涼しい室内から急に気温の高い屋外へ出たりする温度差で、自律神経が混乱して起こります。

「夏バテ」と症状が似ていますが、夏バテの原因は、外気の暑さに体温調節が追いつかないこと。原因も対処法もちがいますから、「夏バテ」と

と決めつけずに冷房環境を見直しましょう。クーラー病を未然に防ぐには、冷房の設定温度を、外気温から-5℃以内に保つようにします。外出先などでは、「上着を持ち歩いて体温を調節する」「温かい飲み物を飲む」「太い血管のある首回りや足首などは冷やさない」などの方法が有効です。安易に薬に頼るよりも、自律神経には、バランスのとれた食事、ラジオ体操などの軽い運動、良質な睡眠を心がけるのが一番です。とはいえつらい症状が続いている人には、代謝を整える漢方という選択もあります。漢方を扱う医療機関にご相談ください。



長い時間冷房の空気にあたるなどによって、自律神経が乱れて頭痛などの不調があらわれます

注意 冷房をOFFにすると熱中症のリスクが高まります。特に体温調節が難しい高齢の方は、無理せずうまく冷房を取り入れましょう。

file. 47

WORLD NEWS

核兵器廃絶と赤十字



原爆投下後の広島赤十字病院。爆心地から約2 kmの地点

核兵器のない世界を目指して… 核兵器禁止条約がもたらす“意識改革”と赤十字の役割

2017年に採択され、発効に向けての各国の署名や手続きが進む核兵器禁止条約。

7月12日、明治学院大学で「核兵器廃絶と赤十字」をテーマに赤十字パートナーシップ講座が行われました。

核兵器問題に対する赤十字のスタンスと未来像について、国際部・大山啓都企画課長の講義内容を紹介しします。

第二次世界大戦の終結直後から 赤十字は「核兵器の使用禁止」を主張

1945年、世界で初めて核兵器が広島と長崎に投下され多くの人々が犠牲となりました。原爆投下の影響を確かめるべく外国人医師として初めて広島入りしたのは、「広島の恩人」として今も慕われる赤十字国際委員会(ICRC)のマルセル・ジュノー博士でした。ジュノー博士はその惨状を世界に伝え、GHQと交渉し15トンの医薬品や医療資機材を提供させたのです。それ以降、日赤は唯一の戦争被爆国の赤十字社として発信を行ってきました。



広島長崎被爆から70年となる2015年、原爆慰霊碑の前で黙祷するICRCのP.マウラー総裁と国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)の近衛忠輝会長(当時)

「核兵器は禁止すべき無差別兵器である」

終戦直後から表明し続けているこのスタンスは、もし実際に核兵器が使用された場合、赤十字をはじめ誰も適切な救護を行うことができないという、救護・人道団体としての深い憂慮によるものです。こうした主張は核兵器禁止条約採択にも大きく貢献しました。

核兵器禁止条約が発効に向けて動き出した今でも、核兵器問題は人類にとって脅威のままというのが現実。その大きな原因となっているのは、核兵器を手放そうとしない国家の存在です。1970年発効の核不拡散条約(NPT)が核兵器保有国として認めているのはアメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国の5カ国。一方で、パキスタンやインドなど事実上の核兵器保有国は増えています。核軍縮も目立った成果を残していません。そして、核兵器を保有する国々は、核兵器禁止条約に参加の意思を表明していません。

核兵器の保有＝不名誉な行為 認識の変化が核兵器廃絶への道筋に

それでもなお、核兵器禁止条約には大きな意義があると赤十字では考えています。核兵器禁止条約という規範の存在は、核兵器の立場を変えるからです。赤十字と同じ理念を持つ、

ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)のベアトリス・フィン事務局長は、ノーベル平和賞の受賞講演で次のように語っています。

「今日、化学兵器の保有を自慢する国はありません。サリンを使用することは極限的な状況下であれば許される、と主張する国もありません。敵国に対して病原菌をばらまく権利を公言する国もありません。これらは、国際的な規範が作られて、人々の認識が変わったからです」

これらの兵器と同様に、核兵器禁止条約が発効し、核兵器の保有＝不名誉な行為、という意識が高まっていくことが、核軍縮、さらには核兵器の廃絶へとつながる——その思いを胸に、赤十字は国際社会への働きかけを続けています。



国際部の大山啓都企画課長の講義に真剣に耳を傾ける学生たち



特別な救急車に乗車するバングラデシュ赤新月社のスタッフと遠藤千晶(左)

1枚の写真から
picture tells stories

「いのち」をつなぐ特別な救急車

バングラデシュの難民キャンプで日赤は仮設診療所を開設しています。そして、この診療所で大活躍しているのが特別仕様の救急車。現地では「トムトム」と呼ばれる乗り物です。この救急車の最大の特長は、小回りが利くところ！

難民キャンプ内や周辺の道路は、たくさんの避難民や自動車がいっぱいです。そのため、普通の車両では交通渋滞にはまってしまい、患者さんを搬送するには過度に時間がかかってしまいます。そこで誕生したのが三輪型救急車。この救急車は渋滞している道でもちょっとした隙間さえあればスイスイ通り抜けることができます。

より多くの人を救うためには、その土地に適した資機材をそろえることが重要です。今日もこの救急車がたくさんの「いのち」を次へつなぐため、難民キャンプを駆け抜けます。

語り◎日本赤十字社 国際部 遠藤千晶